

Twelve Benefit Corporationへの出資について

- eFuelを開発・製造する米国スタートアップ企業への出資 -

株式会社日本政策投資銀行（以下「DBJ」という。）は、Twelve Benefit Corporation（本社：米国カリフォルニア州、CEO：Nicholas Flanders、米国内にてプラント開発・操業、以下「Twelve社」という。）に対し、出資を実行しました。

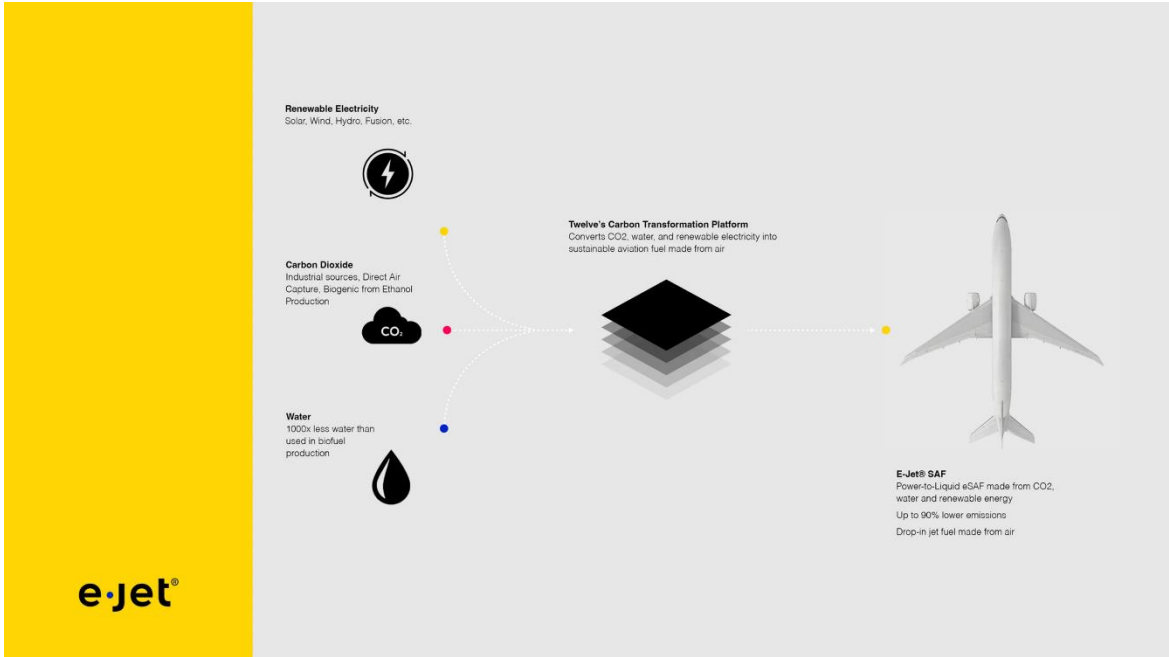
Twelve社は、CO₂電解による低炭素eFuels（electro Fuels（合成燃料））の製造において世界をリードするスタートアップ企業です。同社が独自開発したカーボンリサイクル技術を用いて、CO₂、水、再生可能エネルギーを炭化水素に変換し、化石燃料の代替となる化学物質や燃料を精製します。最終製品の大半を占めるeSAFは、既存の航空機にそのまま使用可能なドロップイン燃料であり、化石燃料と比較してライフサイクル排出量を最大90%削減させることが可能です。同社は米国ワシントン州で、商用規模の1号プラント（Moses Lake）を建設中で、2025年中の運転開始を計画しております。アラスカ航空やIAG（International Airlines Group）等とオフテイク契約を締結しており、今後更なる事業拡大を予定しています。

Twelve社が提供するeSAFは、脱炭素が困難な航空分野に対し、従来の化石燃料を代替する新たなソリューションを提供するものです。航空業界では、グローバルな規制や政策、更には脱炭素目標を背景に、SAF（注）需要が拡大基調にありますが、構造的な供給不足となっております。eSAFは原料調達に制約を受けにくく、従来の化石燃料に対し二酸化炭素を著しく減少させることが可能であるため、次世代航空燃料の一つとして注目されています。

eSAFの主要製造プロセスの中でも、Twelve社が採用するCO₂電解は開発難易度が高い一方、低温反応であるため高度な熱マネジメントを不要とする操業安定性、再生可能エネルギーへの追従性といった強みを持つ技術です。本件は、Twelve社の革新的技術が世界的な脱炭素化に資すると期待し、同社の事業開発を資本面から支援するものです。なお、当行のほかにToppan Global Venture Partners, Inc.、株式会社商船三井、三井物産株式会社、株式会社アドバンテッジパートナーズなども出資参画しました。

DBJは、企業理念「金融力で未来をデザインします～金融フロンティアの弛まぬ開拓を通じて、お客様及び社会の課題を解決し、日本と世界の持続的発展を実現します～」に基づき、カーボンニュートラル実現に向けたお客様の取り組みを積極的に支援してまいります。

（注）SAFとは、Sustainable Aviation Fuel（持続可能な航空燃料）の略称。従来のジェット燃料が原油から精製されるのに対し、SAFは廃食油、バイオマス、水素等を用いて生産される。eSAFは、水素と二酸化炭素を合成して製造されるeFuel（合成燃料）由来のSAFであり、2050年にはSAF供給の半分程度を占める見込み。



【お問い合わせ先】

企業金融第5部 電話番号 03-3244-1620